

音楽生成 AI をめぐる社会的懸念と期待 — 2024 年パブリック・コメントの分析から

肥後 楽（大阪大学）

近年、テキスト、画像、音楽など多様な領域の生成 AI が急速に社会に普及している。業務の効率化や創作活動の裾野の拡大などへの期待が語られる一方で、学習データの取得方法や著作権をめぐる問題、クリエイターの雇用に与える影響、ディープフェイクをはじめとした悪用への対処など、生成 AI が社会にもたらす倫理的・法的・社会的課題の抽出と対応が求められている。

このような状況の中、文化庁は 2024 年 3 月 15 日に「AI と著作権に関する考え方」を発表した。これに先立ち、2024 年 1 月～2 月にかけてパブリック・コメント（以下、パブコメ）が実施された。このパブコメは「AI と著作権に関する文化庁の考え方について（素案）」に対する意見を募集するため実施されたもので、最終的に 24,938 件（うち法人・団体数 73）の意見が提出された。これらの意見の中には、素案に対する直接的なコメントに加えて、生成 AI を用いること自体に対する批判や支持、特定の悪用方法に対する懸念などさまざまな論点が含まれている。

本発表では、パブコメに対し個人から寄せられた意見に注目し、以下の問いに基づいて内容を検討する<sup>1</sup>。①生成 AI の使用全般に関して、どのような懸念が表明されているか。②音楽生成 AI に特有の状況や懸念、期待について触れられたコメントがあるか。あるとすれば、それはどのような内容か。

分析にあたり、まず発表者が設定した「音楽」の関連語句が含まれている約 800 件の意見を抽出した。これらの意見を精読し、述べられている期待・懸念の分類、具体的に指摘される事件や事例の抽出を行った。

生成 AI は技術の進展、社会への普及のスピードが非常に速く、技術に対する規制の方法や社会からの受け入れられ方が今後変化していくことが予測される。本研究は、2024 年時点で市民が特に音楽生成 AI に対しどのような懸念と期待を抱いていたのか整理し、記録するための基礎的な作業として位置付けられる。

---

<sup>1</sup> 分析の資料として、文化庁が公表している「「AI と著作権に関する考え方について（素案）」のパブリックコメント結果について」を使用した。2025 年 10 月時点で、（その 1）～（その 8）までの PDF ファイルが公開されている。